様式第３号

令和５年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	70	学 校 名	静岡県立浜松北高等学校	校 長 名	鈴木　敏彦

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
(1)	**生徒が高い「志」を抱き、それに基づく進路目標の実現に向けて切磋琢磨し合う中、大きく成長する。** **《生徒の成長日本一の学校！》**	①②③④生徒一人ひとりについて、知る・理解するための面談を年３回以上実施。	個別面談を３回以上実施した。	B	個別面談については、引き続き年３回以上の実施を目指す。
		学校生活に関するアンケート（以下「アンケート」）で、「進路目標の実現に向けて自主的に取り組む姿勢を育てている」「進路選択に関する情報提供が適切に行われている」と答える生徒が 90%以上。	アンケートで、「進路目標の実現に向けて自主的に取り組む姿勢を育てている」「進路選択に関する情報提供が適切に行われている」と答えた生徒がともに 84%に留まった。		「アンケート」の各項目について、90%以上の回答を得ることを目指して、教育活動を推し進める。
		ロードマップについて、必要な変更が加わり、より適切なものになる。	ロードマップに基づき３年間を見通した進路指導を行うことができた。		必要な変更等を加え、より相応しいロードマップにする。
		②本校ならではの「定期テスト、実力テスト、模擬試験等のテスト」や「課題」のあり方等について、研究・協議が進められる。	他県の進学校の状況等も参考に、見直しを行った。社会状況が見通せない中、小変更に留めざるを得なかった。		社会状況、新課程入試も踏まえながら引き続き検討を行う。
		③令和４年度末までの大学入試の結果や指導等に関する分析や検証の結果、次期大学入試に向けて必要となる対応等について、進路指導部等から教職員、生徒、保護者へ、時宜に適った情報提供がされる。	進路に関する情報や助言を毎月の進路だよりに掲載し、情報提供をすることができた。 東大ガイダンス、京大ガイダンス、医学科ガイダンス等、オリジナルな情報の提供に努めた。		情報の提供を適切に行うことで、自主的に取り組む意識が高まった。引き続き、積極的な情報提供を行う。 予備校では知ることができない情報の提供で、生徒のモチベーションアップにつながった。継続して実施する。
		④課外補講が適時、適切・的確に設定される。	早朝課外、夏期・秋期・冬期の各課外等、計画的に実施することができた。		引き続き、計画的に実施する。

様式第３号

(2)	**生徒の学力向上に向け、教職員が積極・意欲的に、授業の改善や指導法の研究等に取り組む。**	①授業公開週間において、一人２回以上、他教科の授業を参観する。 特に、１・２年生に所有を義務付けた端末について、授業や授業以外の教育活動における多くの場面で、効果的に活用される。	２回の授業見学週間により、他の教科・集団の授業を見学しやすくなり、様々な視点や気づきから、自らの授業に生かす環境づくりができた。	B	授業見学を通じてICT機器の活用事例などを共有することができた。生徒の活用状況や授業中の利用についてさらに研究を重ねる必要がある。
		①②アンケートで、「興味・関心や意欲を高める授業が行われている」、「学力が向上する授業が行われている」と答える生徒が90%以上。	「アンケート」で、「学ぶ意欲を引き出す授業が行われている」と答えた生徒は73%、「学力が向上する授業が行われている」と答えた生徒は84%であった。		授業の改善や指導法の研究等に、さらに取り組む必要がある。
		③定期テストについて、測定ツールとしての機能を果たし、「生徒の学力伸長」、「教職員の指導改善」に結び付くものとなる。	同一教科・科目の「共通問題」による実施については、多くの教科で実施できている。		定期テストが「生徒の学力伸長」「教職員の指導改善」に結び付くものになるよう、さらに研修を重ねたい。
		①②③内容やレベル、進度等の教職員間の差違ついて、生徒・保護者からの不満の声がなくなる。	予備校の指導法講座などを活用し、指導方法の改善研究を行った。		予算の関係で、すべての教職員が参加できる状況にないのが課題である。
(3)	**建学の精神「自主独立」を体得し、豊かな人間性、幅広い教養、国際感覚を身に付けて、元気でエネルギーに満ちた逞しい心と体を育むべく、何事にも積極的・意欲的に取り組む生徒を育成する。**	①アンケートで、「学校行事に意欲的に取り組んでいる」「学校行事はこれから求められる力を育てるものとなっている」と答える生徒、保護者が共に90%以上。	生徒の「意欲的に取り組んでいる」だけが89%と目標の90%にわずかに届かなかったが、生徒の「これから求められる力」は92%、保護者のそれぞれは94%、96%であり、目標はほぼ達成できた。	B	学校行事の目的を明確にし、共有する必要がある。
		②「生徒個々の能力や個性を大切にしている」と答える生徒、保護者が共に90%以上。	保護者は96%が肯定的に回答しているが、生徒は前年の 90%から84%に低下した。		生徒は、指導にしっかりとした理由がないと納得しない部分がある。生徒の成長のために必要な指導は何かを考えていきたい。
		①②令和４・５年度の校外学修等について検証がされ、令和６年度以降の国際科のあり方について、より良い形が見出される。	費用や事前準備の負担を減らしながらも、効果的にできる内容・実施時期について検討をすることとした。国外プログラムについても		授業とうまくリンクさせ、一層の相乗効果があげられるよう、内容の工夫を考えていきたい。

様式第３号

		国際科について、アンケートで、「入学してよかった」「入学させてよかった」と答える生徒、保護者が共に 90%以上。 ①②ＧＴＥＣ45 点アップ。	行先の変更も視野に検討をすることとした。 学校全体のアンケート結果で、生徒が 94%、保護者が 98%、肯定的に回答している。 （ＧＴＥＣは、２月末実施。）		国際科のみならず、引き続き、教育活動の充実に向けて取り組んでいく。
		①部活動加入率が 95%以上。 ②令和３～５年度入学生の部活動加入状況等について分析がされ、令和６年度以降の部活動の運営やあり方について検討がされる。	部活動加入率は 100%である。		令和６年度から、２・３年生について部活動への加入を任意化し、個々の主体的な活動をしやすくする。 また、全員加入の「蜻蛉クラブ」を立ち上げ、既存の部活動ではカバーしきれない活動を支援していく。
(4)	自立した人間としての規範意識、人権尊重の精神を養い、高い自己管理能力と社会性・公共性を備えた生徒を育成する。	①②機会を捉えて指導するとともに、「討論会」等において、挨拶やマナー、人権等について、生徒自らが考え、意識を高める。	石黒浩氏の特別講義「アバターと未来社会」を受け、クラス討論会で「人間とは何か」をテーマに討論した。	B	機会を捉え、今後も心に響く指導を心がけていく。
		○街頭（登校）指導の継続実施及び自転車の整備点検の徹底。前年比、年間事故件数の２割減、不注意による遅刻数の半減。	街頭指導を行い、生徒の交通安全意識の涵養を図ることができた。		ポスターの掲示などを行い、交通安全への意識の向上を引き続き行っていく。
		①②体罰及びいじめについて、いずれも“ゼロ”。アンケートで、「頼れる教員がいる」と答える生徒・保護者が 95%以上。	いじめを２件認知し、適切に対応した。 「頼れる教員がいる」と答える生徒は 81%、保護者は 87%であった。		生徒との信頼関係を深め、安心安全な学校づくりを推進する。
(5)	生徒の心身の健全な発達を促し、学ぶ意欲の醸成に繋がる保健・情報（図書）指導や設備の充実な	①学校保健委員会における生徒研究発表が、質・内容ともに更にレベルアップする（学校の生活環境の整備・改善に関し、生徒目線での意見・提案を堂々と行う。）。	「睡眠とスマホ」に関する発表を行った。研究の過程で保健委員以外の生徒にも行動変容が見られ、レベルの高い研究ができた。	B	全校生徒に自分自身の健康状態を振り返る機会を提供し、改善に向けての具体的な働きかけをすることができた。

様式第３号

	ど、安心して快適に過ごせる教育環境をつくる。	②保健委員会・整備委員会の活動を活発化し、生徒自らの発信により、校内美化・清掃活動の充実がより図られる。 ①②アンケートで、「清掃活動を通じて、学びや生活の場を大切にする心を育んでいる」と答える生徒及び保護者が 85%以上。また、トイレ等の汚れについて、指摘がなくなる。	清掃への取組が不十分な箇所が見られた。 アンケートで、生徒75%、保護者 87%が肯定的な回答であった。 トイレ掃除について生徒教員が共通理解を図れるよう、清掃手順を図示し掲示した。		生徒の清掃への意識を高めたい。 清掃分担の配置を再検討し、気持ちの良い学校生活を送るための環境づくりを行う。
		①②アンケートで、「健康、安全の確保に関する指導が適切に行われている」と答える生徒が 90%以上。 ②「学校が楽しい」と答える生徒が 95%以上。	アンケートで、生徒89%が肯定的に回答している。熱中症予防講座、薬学講座等を通して、健康に関する正しい知識を付けることができた。 アンケートで、94%の生徒が肯定的に回答している。		性教育やがん教育の講座を実施できるように検討したい。 生徒が自ら悩みを発信できたり、教員が複数で生徒を支援できたりするような体制づくりを検討する。 特別支援教育に関する講習会を継続して実施する。
		①図書館が全日制・定時制、両課程の生徒にとって、本を借りる、本を読み・本に親しむ場としてのみならず、学びやコミュニケーションの場としても機能し、より多くの生徒が集まる場となる。 ②図書館利用者数が増加。読書活動に関する「生徒から生徒へ向けた発信」が増加する。	図書委員会において、「栞コンテスト」を実施し、入賞者を校内新聞で発表した。「ブックトラック」の活動では、渡り廊下に展示を行い生徒の本への興味を引くことができた。		ブックトラックの台数を増やすなどして、生徒が本に触れる機会を増やしたい。 上級生になるに従い図書館から足が遠のく生徒がいる。理由を聞くと「忙しくて暇がない」との回答があったので、学校全体での取組も必要だと思われる。
		①コロナが終息し、地域防災訓練が実施された場合については、参加率が前回比増。 ②防災備品等について、点検・整備が図られる。 防災訓練内容について、工夫・改善が図られる。	生徒地区会や防災教育、防災訓練を滞りなく実施できた。 防災備品の在庫確認・入れ替えなど必要なことを実施できた。		危機管理マニュアルの見直し。 防災教育の充実として、自衛隊による防災講話などの実施を検討したい。 防災訓練の内容の工夫。

様式第３号

		○不備・未実施、事故・トラブル等、ゼロ。	物価高ではあるものの、物品等の購入や、修繕等が必要な箇所への対応は確実に行っている。		生徒用机・椅子の更新が難しい状況にある。物価上昇に応じた予算になるよう、県教委に要望していく。
(6)	教職員の資質向上と危機管理・コンプライアンス意識の高揚、業務の効率化と多忙化の解消を図る。	①必要な研修が、適切な時期に実施される。 ②職員の超過勤務時間の前年度比減。	校内研修では静岡大学情報学部の狩野芳伸准教授の講演会を実施し、チャットＧＰＴなど言語型生成ＡＩの様々な知識を得ることができた。 職員の超過勤務時間の削減はできなかった。	B	ＩＣＴの活用を推進していく中で、ネットの中での生徒の人権を保護できるような知識を共有できるようにしていきたい。 継続して取り組んでいく。
(7)	**「信頼される学校づくり」に向け、本校の魅力を積極的に発信する。**	①ＨＰについて、特に行事、部活動の関係ページが改良される。 ＨＰの更新が週１回以上。 ①②アンケートで、「家庭への連絡や情報提供が適切に行われている」と答える保護者が 90％以上。 ③参加中学生等の満足度がアップ。	行事、部活動の関係ページが、およそ２日に１度のペースで更新できている。 「家庭への連絡や情報提供が適切に行われている」と答える保護者は、86％であった。 様々な機会を通じ、学校の情報・魅力の発信に努めた。	B	学校の HP のシステムが変わることを踏まえて，ＨＰを見やすく充実するよう改良していきたい。 きずなネットを活用した情報発信の在り方について検討する。 中学生一日体験入学の参加申込について個人申込の準備を進める。
(8)	**「新学習指導要領」に基づく「新カリキュラム」を着実に推進する。**	①一人一台端末について、本校ならではの効果的な活用例について示される。 ②教科「情報」の指導を含め、本校における「情報教育」のあり方や方向性等について示される。	「ＩＣＴ機器等を活用した新たな学習指導法」の研究では、授業見学を通じて活用方法や活用事例について職員間で共有することができた。 プログラミングに留まらずデータ分析についても内容を更新した。 授業内容の難易度が上がったため、理解できたと答える生徒の割合が減少した。	B	各科目の授業時数がきわめてタイトな中で、ＩＣＴを教科指導の中に組み入れることが難しい現状がある。いかに端末を活用していくかを模索し続ける。 難化、高度化した内容をいかにわかりやすく教えるか、授業構想を再検討している。